

プロポーザル審査委員会（第3回）会議概要・議事録

◇会議概要

○開催日時：平成24年10月28日 10:00～17:30

○出席者：委員（林委員長、安達副委員長、赤司委員、小松委員、篠原委員、江頭委員、池松委員、杉委員）

事務局（平松参事監、村井県庁舎建設課長、豊永装備施設課長 外）

○会議次第

1. 議事1 (10:00～11:30)

(1) 二次審査について

- 1) 審査基準、二次審査の進め方
- 2) ヒアリングについて

(2) 特定通知等について

(3) 公表について

- 1) 記者投込等
- 2) 議事録について

2. ヒアリング (13:00～15:00) (2者 各者共説明20分、質疑応答25分)

3. 議事2 (15:30～17:30)

(1) 二次審査

- 1) 意見交換
- 2) 採点、集計
- 3) 最優秀提案者、次点の決定

(2) 講評について

○審議結果

1. 審議結果（議事1）

- 1) 審査における各項目の評価の目処は、「A評価は1者以内で、その他はB評価又はC評価であれば、同じ評価でも可」とする。
- 2) 審査の進め方は、ヒアリング終了後、委員の意見交換を行い、委員の採点、集計を行う。二次審査及び一次審査の結果を集計し、最優秀提案者及び次点を決定する。集計結果の最多得点者とそれ以外の者との点数差が僅差（100点未満）の場合は決選

投票を行い、委員の過半の票を獲得した者に100点を加算する。

- 3) ヒアリングにおける質疑応答の共通質問と個別質問の内容の確認、調整。
- 4) 最優秀提案者の特定、次点通知、公表は事務局案で了承。

## 2. 審議結果（議事2）

- 1) 最優秀提案者はA者とし、次点はB者とする。
- 2) 講評の内容は各委員の発言を踏まえ、委員長一任とする。

## ◇議事録（議事1）（10：00～11：30）

事務局：県警察本部の人事異動により、審査委員であった荒瀬委員が異動し、後任の杉警務部長が委員に就任していただいた。また、篠原委員は本日所用のため少し遅れてこられるが、現時点で委員の過半が出席しており、委員会は成立。

### （1）二次審査について

#### 1) 審査基準、二次審査の進め方

事務局：第2回委員会では参加表明者2者の参加表明書を審査し、技術提案書の提出者として2者（A者、B者）を選定となった。二次審査の参考評価となる担当予定技術者の人数、手持業務量、参考見積額は集計表のとおり。これらの内容も勘案し、二次審査の4つの視点のうち、まず視点1の評価をお願いしたい。

### ○二次審査(視点1の参考評価)集計表

評価項目		A者	B者
1. 担当予定技術者数の人数 (工程動員計画の妥当性)	想定技術者数に対する割合	104%	88%
	備考	本設計業務において県が想定した技術者数に対し、A者は多く、B者は少ない。	
2. 手持業務量 (繁忙度)(手持業務量を差し引き後の許容業務量に対する本業務が占める割合)	繁忙度 a/(b-c)	3.0%	5.1%
	備考	各者とも本設計業務が影響を受けない手持業務量。	
3. 参考見積	参考見積額	158 百万円	147 百万円
	業務規模*に対する割合	98.1%	91.3%
	安価な順番	2	1
	備考	*業務規模: 約161百万円(プロポーザル説明書に明記) 一般的な委託業務の最低制限価格75%は各者とも上回る金額。なお、本設計業務はプロポーザル特定後の随意契約となり、最低制限価格の設定はない。	

事務局：次に、4つの視点に対する二次審査において、委員が評価する2者の評価の目処に

については、事務局案としては、「A評価は1者以内、他の者はB評価又はC評価。」としているが、これでよいか。また、評価後の集計結果が僅差となった場合の最優秀者等を定める方法については、一次審査結果公表と同時に、「一次審査と二次審査の評価点の合計において、1位の者と2位の者の点数の差が僅差の場合（100点未満）は、決選投票により最優秀提案者及び次点を決定する」と公表している。事務局案では、決選投票を行う場合の点数100点の加算方法として、委員の過半数の票を獲得した者に100点すべてを加算する案でどうかと考える。

委員長：1点目は、各項目の評価の目処。2点目は、決選投票のやり方。まず、1点目について、事務局案では、A評価は1者以内、他の者はB評価C評価と明確につけずともB評価とB評価、C評価とC評価と同じ評価になってもよいという案であるがどうか。

委員：A評価が無しでもよいか。

事務局：差をつけるということであれば、A評価は必ずつけるということでしょうか。

委員：A評価が1者以内ということは、A評価が無いこともあり得るし、視点ごとには、B評価とC評価やB評価とB評価ということもある。

委員長：それでは、評価の目処は、A評価は1者以内とし、A評価が無いこともあり、その他はB評価またはC評価とする方法でよいか。

委員一同：同意。

委員長：それでは、そのように行うこととする。2点目は、決選投票について。集計結果が100点未満の僅差の場合は、決選投票で100点を加算するとしているが、委員の半数の投票を得たものに100点すべてを加算する案でよいか。

委員一同：同意。

委員長：それでは、そのように行うこととする。

## 2) ヒアリングについて

委員長：ヒアリングの質疑では、まず私から共通質問として2問行う。内容は、①提案で最大の特徴と考えられるポイントを1点に絞って説明を。②行政棟、議会棟との調和に配慮した提案と思うが、一方で警察本部庁舎としてのアイデンティティをどこに持っているか。その後の個別の質問は、各委員は挙手後、名前を言って質問をしていただく。委員の専門分野が違うので、専門の方がその専門の分野を質問するようにしたいので、聞きたいことがあれば出していただきたい。

委員：1点目は、防災・治安拠点として、指揮命令の伝達系統に不通が生じないよう庁舎内の機械設備の損傷を最小に抑えるような設計上の考えはあるか。もう1点は、通信機械室と通信指令室などの関連設備は離れていると電氣的ロスや損傷リスクが高くなるが、これをどう考えるかを聞きたい。

委員：治安拠点についての提案を補足することはないかというのが1点目、もう1点は、A者の提案のマウンドの有効性やデメリットについて聞きたい。

委員：A者には、防災・治安拠点の機能継続として、構造計画において一番配慮した点は何か。また、強風対策の摩擦ダンパーの設置場所はどこか。免震装置の部分なのか建物部分なのかを聞きたい。B者には、あらゆる災害を想定した防災拠点を構築するために構造計画においてどのような配慮をしたか。また、免震構造における耐震架構の引き抜きをどのように考えているかを聞きたい。

委員：A者、B者共に熱源側の省エネ対策などについて、具体的な省エネ方法やどの部分で省エネの数値を想定しているのかを聞いてみたい。

委員：長寿命化については、メンテナンスの話が必要に応じて聞いてみたいが、警察の場合は、プランの可変性について、B者では、通信指令室が動かせるような提案であるが、警察としてはこのようなことは考えられるのか。

委員長：今の点はどうか。

委員：提案のような可変性は、我々が使う庁舎としては、あまり想定されていない。

委員：通信機械は10年程度で更新するが、他に部屋を準備する例はない。更新時は、現存する機械の空きスペースを使うのが一般的。装置のすべてを同時に更新することはないが、余裕を持った設置でないと更新時は大変ということはある。

委員長：更新時の対策がとれているかの確認を。

委員：両者とも3階がメインエントランスになっており、新駅舎からのデッキは、庁舎の完成後の整備となる予定である。特にB者は、デッキが2つあり、1つは警察本部庁舎に直接行くようであるが、両者にデッキが未整備の場合の庁舎づくりの考え方が変更できるかを聞きたい。B者では、主要機械室は上層階にあるが、熱源機械室や防災センターが1階にあることを疑問に思った。

委員：片方は警察棟の上にもヘリポートが計画されているが、もう一方には表示されていない。設置の義務はあるのか。

事務局：ヘリポートの設置は予定していない。

委員：新駅舎からのデッキと新庁舎の竣工はどのくらい時期がずれるか。

事務局：明確には決まっていないが、新幹線と新駅舎は平成30年から平成32年の整備。また、旭大橋の低床化も現在検討中で、低床化後にデッキが整備された場合、5年から10年程度遅くなる可能性がある。

委員長：2つ目のエントランスがどこにくるかは重要。新駅舎の建設が後であれば、エントランスの可変性を聞いていただきたい。共通質問後に構造的な防災拠点の質疑、その後、エントランスの考え方、省エネ対策、長寿命化、デザインなどについて聞いていただき

たい。

委員：一巡の後に質問してもよいか。

委員長：はい。両者とも追加の質問が想定される場合もある。

委員：警察の方に聞きたいが、A者の提案にテロ対策があり、柱が数本やられても大きな被害にならない構造的なテロ対策であるようだが、通信指令室などに火炎瓶などを投げられる下層階におかず、窓の間際に部屋を作らないなどの考えもあると思うがどうか。

委員：通信指令室などは上階に配置するのが一般的。A者の提案では通信指令室は中2階の見学コースから自由に見ることができるようだが、通信指令室のパネルには、様々な情報が表示される。そのような情報を一般の見学者が見ることは考えられない。通常の見学は、小中学校等が事前に申し込み、社会見学を個別に受け入れている。最悪、見学者がガラスを割り火炎瓶を投げたりすると、治安拠点機能が麻痺してしまう。

委員：設計時点で修正できるものは、あまり指摘しないほうがよいと思うが。

委員長：指摘はしてよいと思う。そのことに対する認識が不足しているから。私も認識が不足していた。通信指令室などを制限なく見学できると思っていた。

委員：治安拠点をどう考えるかを聞いてみたい。それで考えていることがわかる。火炎瓶なども想定する必要があるし、構造や通信のインフラの件もある。動線の工夫も必要になるが、補完的なことまで考えているかを聞いてみたい。

委員：補足だが、通信指令室の大きなパネルは、指令官が110番を受付けて無線で指示する際に、皆が共通認識を図るためにあるが、見学者がよく見えるように大きなパネルとしていると勘違いされる場合がある。

委員長：その情報は、警察専門の方でないとは知り得ないと思われる。それらの内容は、設計時点の協議の中で、設計者が思考の可変性や柔軟性を持っていれば解決できる。A者の提案でマウンドについての意見はありますか。

委員：「1階、2階が見えない」「災害時の消火活動に支障になる」「外から物を投げられる」「人が転倒する」等の弊害が考えられるが、デメリットに考えが及んでいるかを聞いてみたい。

委員長：駐車場が低めの位置にならざるを得ないということもあり、見学者のロビーの位置などメリットもあると思われる。

委員：免震構造において強風対策の摩擦ダンパーの設置の提案があるが、アンテナの強風対策は提案では触れていない。強風時においてもアンテナ性能を確保するための角度について条件などの変形制限を示す予定はあるか。

委員：風速65～70m/sでも影響を受けないようなアンテナとする必要がある。

委員：アンテナをどうするかは設計条件に入っているか。

事務局：与件として、高さを60mとし、位置を示している。

委員：両者とも建物の外ではなく、建物の上に載せる提案だと思われるが、建物の構造には配慮されていないのではないか。

委員：私見だが、アンテナの高さが60mであれば、建物の高さを30mとすると、残りが30mであり、それくらいの高さの構造であれば、上の階で支持させれば、建物全体では力が分散される。両者とも長スパンがあるので、最上階には大きい梁が必要となるかもしれない。

委員：その辺りが設計段階で対応できるのであればよいと思う。

委員長：今まで発言のあった内容を各者に聞いてみたいと思う。午後から出席される篠原委員からは、アンテナを含めた全体のデザインの質問があると思われる。ヒアリングの質疑は以上とする。

事務局：補足を2点。1点目は、発言時における委員の名前のご発言について、ご質問の時、名前を発言いただくのは、会場の傍聴者の方々には委員の背中しか見えないためである。もう1点は、ブザーを鳴らすタイミングについて、説明は終了3分前と終了時の2回鳴らす。質疑応答も終了3分前と終了時の2回鳴らす。これは前回の行政棟の時と同様。

## (2) 特定通知等について

事務局：本日決定する最優秀提案者、次点の各々の者に特定、次点の通知を送付する。

## (3) 公表について

### 1) 記者投込等

事務局：本日中にプロポーザル審査結果を記者投込と県のホームページで公表する予定。また、各者の技術提案書についても印刷などができないようにして、近日中に県のホームページで公表する予定。

### 2) 議事録について

事務局：前回の行政棟と同様に、議事録案を作成後、各委員に文言等の確認をしていただいた上で、県のホームページで公表する予定。

委員：議事録は今日の分も含め全3回の委員会分をまとめた上で、内容確認を各委員に行うということでよいか。

事務局：そのようにお願いしたい。

委員長：以上で午前中の審議は終了。

## ◇議事録（ヒアリング）（13：00～15:00）

各者に対し、別添1（4枚）のとおり、質疑応答がなされた。

## ◇議事録（議事2）（15：30～17:30）

## （1）二次審査

## 1) 意見交換

技術提案に対し、各委員から別添2（2枚）のとおり意見が示された。

## 2) 採点、集計

各委員が二次審査項目について採点を行い、その結果と一次審査の結果を合わせた集計表を作成。

## ○審査結果集計表

項目	配点	A者	B者
一次審査の合計	300点	250.6	244.9
二次審査の集計結果	600点	512.6	393.9
合計	900点	763.2	638.8
			124.4点差

## 3) 最優秀提案者、次点の決定

委員長：1位のA者と2位のB者の差は、124.4点となった。また、視点1から4のすべてでA者が優位の結果である。この結果を踏まえ、各者に対する意見はないか。

委員：A者は、治安拠点について、もう少し考えていけない点はある。

委員：A者に比べ、B者は詰めが甘いと感じた。A者はそれなりに考えていると思った。

委員：B者は通信指令室や交通管制センターなどの「機能性」を第一に考えている点では評価できるが、デザインはA者がよいと感じた。

委員：A者の「開かれた警察」は受け取り方が違うと感じられるが、その点は設計を進めていく段階で整理できるのではないか。

委員：B者は警察棟の業務をよく知っている感じだが、A者も設計段階で修正できる内容と思われる。

委員：一次審査では差がなかったが、二次審査でははっきり差がついた。プレゼンテーションの重要性を感じた。

委員：一次審査はB者がよいと思ったが、二次審査ではA者がよい。一次審査後の頑張りの差が出たのではないか。

委員長：今回は、プロポーザルの受け取り方にバラツキがあった。僅か2者の応募は、前回の行政棟の受け止め方がかなり強かったためと思われる。規約上は2者で成立であり、最優秀提案者と次点の両方を決定したい。それでは、午前中の審議で決めたとおりの方法に従い、1位と2位の差が100点以上の大差（124.4点差）であることから、A者を1位の最優秀提案者と決定し、B者を2位の次点に決定してよろしいか。

委員一同：同意。

委員長：それでは、A者を最優秀提案者、B者を次点と決定する。

#### ○プロポーザル審査結果

項目		配点	A者	B者
一次審査合計		300点	250.6	244.9
二次審査	(視点1) 特定テーマ 様式Ⅳ、ヒアリング ①基本構想に掲げる基本理念を実現するための警察本部庁舎の基本的な考え方	150点	125.0	106.3
	(視点2) 特定テーマ 様式Ⅳ、ヒアリング ②構造、設備計画の考え方 ③防災・治安拠点整備の考え方	150点	125.0	106.3
	(視点3) 特定テーマ 様式Ⅳ、ヒアリング ④県民サービスとセキュリティの考え方 ⑤低炭素社会の実現と建築物の長寿命化の考え方	150点	131.3	93.8
	(視点4) 特定テーマ 様式Ⅳ、ヒアリング ⑥庁舎デザインの考え方	150点	131.3	87.5
	二次審査合計	600点	512.6	393.9
全体(一次+二次)合計		900点	763.2	638.8
全体順位			1位	2位
審査結果			最優秀提案者	次点



(2) 講評について

事務局：最後にもう1件、本日発表する委員長講評として、A者、B者の各々の評価のポイントや課題をまとめ、事務局で整理し委員長の最終確認後、公表する。この講評内容について、ご意見を伺いたい。

委員長：講評としては、A者、B者とも先行する行政棟・議会棟の設計業務との調和については真摯に対応いただいた。両者とも魚市跡地にふさわしい提案をいただいた点は評価できる。最終的にはA者がより具体的な提案、積極的な提案が多かったと判断した。平面計画においては、A者の明快なプランに対し、B者は不明瞭なプランが見られた。また、県産品を積極的に取り入れる提案は高く評価できる。ただし、A者は警察業務について、理解が不足する部分もあるので、設計段階で、よく検討するようにしていただきたい。などの内容がある。

委員：駐車場屋上広場などは、行政棟の設計者の業務範囲だが、両者で協議してよい物をつくっていただきたいが、そのようなことは書けるか。

委員長：警察本部庁舎の設計者に対しては書きにくいと思う。警察本部庁舎の設計業務においては、周辺との取り合いをよく検討していただきたい。

事務局：委員会で指摘を受けたこととして整理させていただく。

委員長：他に意見はないか。今の内容を踏まえ、事務局で文章化した後、私が確認するということでよいか。

委員一同：同意。

委員長：それでは、そのようにさせていただく。以上で審議を終了する。ありがとうございました。

事務局：委員長ありがとうございました。総務部長より閉会のあいさつを行う。

総務部長：審査委員会での熱心なご審議の結果として、最優秀提案者を特定し、次点を選出いただいた。県としても本日中に報道機関に公表したい。今後は、先行する行政棟の設計業務などと調整を行いながら、県民とともに新しい時代を切り拓く警察本部庁舎をつくっていきたい。今後ご支援をお願いしたい。本当にありがとうございました。

## 第3回委員会 ヒアリングにおける質疑応答（13:00～15:00）

## ① A者発表（20分） 内容省略

## ② A者質疑応答（25分）

委員	質疑	応答
林委員長1 (共通質問1)	提案の中で、最大の特徴と考えられるポイントは何か。	3階のデッキフロアに県民サービス施設や、交通管制センター等の見学施設、武道場をまとめて配置している点。 3階を使える特徴を生かした計画であり、警察の姿を県民にPRできる一方でセキュリティを保ちやすくすること。
林委員長2 (共通質問2)	行政棟・議会棟との調和に配慮した中で、警察本部庁舎としてのアイデンティティは何か。	水平ラインを強調したデザインについては、行政棟・議会棟との共通性を持たせた。 また、警察棟は行政棟・議会棟に対して脇役と考え、主張の強いデザインではなく、堅実で落ち着いたものとした。
安達副委員長1	「冗長性」と「減災」の考えに基づき、防災・治安拠点としての「機能を継続できる庁舎」を実現するために構造計画に配慮した点は何か。	想定を越えた負荷に対しても急激に性能が落ちないために、防災庁舎として免震構造とすることを考えた。 今回は無線鉄塔が建つことで、台風の度に建物が頻繁に動いても無線鉄塔を機能維持するため摩擦ダンパーをつけることとした。
杉委員1	治安拠点としての考え方について特に配慮した点は何か。	警察業務の特性に合った庁舎とするため機能性を重要なポイントとした。 建物の中心に近いところに縦動線をあわせ、外に出て行かねばならない部署を下のフロアに置くなど、フロア構成も含めた機動性を今後検討する。
杉委員2	庁舎の外回りのマウンドは、1～2階を塞ぐ形になるが、メリット・デメリットは何か。	メリットは、県庁舎全体としての視覚的連続性を考慮したもの。一方でセキュリティにも考慮し、ドライエリアを設けて直接近づけないようにした。 デメリットは、2階部分に窓がなくてもよい機械室を設け、銃で撃たれるようなことも想定してコンクリートの壁とし、さらにその外側にプレキャストコンクリートの2次壁を設けることを検討しており大きなデメリットはない。
池松委員	県庁舎の完成より新駅や接続デッキの完成は数年遅れタイムラグが生じることから、新駅が完成するまでの間、メインエントランスを含めたフロア配置の変更は可能であるか。	与条件をすべて頂いたうえで、基本設計、実施設計で最善のものとする。 車での来庁者は、駐車場棟に駐車し、気持ちのいい屋上に上がりた方が多いと思われる。屋上広場と3階のエントランスの関係は、新駅がなくても成り立つと考える。

赤司委員	LCCO <sub>2</sub> 、運用CO <sub>2</sub> 、あるいはLCCの削減で、機能を確保するために設備を多重化するとエネルギー消費量が増えるが、エネルギー消費を大きく削減できるという根拠は何か。	簡易的にLCCとLCCO <sub>2</sub> を算定できるソフトを用いて、手法の比率や、当社の過去の類似施設の実績を考慮したもので、設計段階で見直しながら進める。 警察庁舎は24時間稼働の施設もあり、そのエネルギー量も考慮して反映させる。
小松委員1	間仕切りの変更やフレキシビリティについて、通常のオフィスビルとは違う警察業務の中で、どういう部分が変わると考えているのか。	警察業務の進め方は、全国警察の体系の中で決まっており、将来の変化の予測は難しいが、システムの面は、技術が変わる可能性がある。
小松委員2	警察業務の変化に対してどういうフレキシビリティを確保しようと考えているのか。	設備ルートには大量の配線があり、それに対応するようプレキャストの床板を採用し、自由度の高い天井空間にして設備のシステム更新に対応する。
江頭委員	通信指令室は、通信機械室と多数のケーブル等につながれ、震災等で損傷を受けないように通常は直近に配置するが、提案では離れた配置であるが設計上や構造上の対策等は何か。	我々が過去に設計した警察本部では、上層階に配置した例もあれば低層階に配置している例もある。基本的にはケーブルのルートが確保できれば技術的な問題はないと考える。 また、「開かれた庁舎」でも、受付等にセキュリティラインを設けて一定のセキュリティは確保する。
篠原委員	屋上広場や防災緑地は今回のプロポーザルの範囲外だが、実際には県庁側と議論をして進めていくことになると思うので、提案がないのは消極的な印象を受けた。	防災緑地等も色々考えたが、提案の範囲外ということであり、今回はこの提案でまとめた。
安達副委員長2	強風対策の摩擦ダンパーの位置は、建屋に付いているのか免震層と並列しているか。	免震層に摩擦ダンパーを付けている。

## ③ B者発表 (20分) 内容省略

## ④ B者質疑応答 (25分)

委員	質疑	応答
林委員長1 (共通質問1)	提案の中で、最大の特徴と考えられるポイントは何か。	やはり県庁舎との調和。デザインも含めて街区全体で建築あるいはランドスケープをつくっていくということが大事。
林委員長2 (共通質問2)	行政棟・議会棟との調和に配慮した中で、警察本部庁舎としてのアイデンティティは何か。	外観に関してはいろんな考え方があるが、警察庁舎に関しては、機能的が第一であり、それがアイデンティティの表現となる。
安達副委員長	フレームのイメージ図では、短辺方向に無柱空間をつくるため梁を鉄骨にしているが、鉄骨梁は柱に比べて剛比が低くフレームだけでは剛性が小さいために、RC造の耐震架構で補うということだが、短辺方向はコア部分のRCの耐震架構に水平力が集中し、それも上から下まで連層であるので、過大な軸力が生じたときに引き抜きが生じないのか。免震構造では、引き抜きが弱点になるのでその点についての見解を聞きたい。	基本的に真ん中にコンクリートのフレームで固めて、地震にも抵抗させる。 壁を入れればよいが、壁を入れれば免震部材に引き抜きが懸念されるため、設計の中でシミュレーションしながら引き抜きのでないような形にする。 また、今回は低層なので引き抜きに関しては有効な構造である。
杉委員1	「治安の拠点」として、構造上、フロア構成上あるいは動線上、特に治安の拠点として配慮したポイントとは何か。	治安拠点では、通信関係をきちんとした系統とする。 建物では、低層棟とすることで各部署間の連携ができることがプラン上のメリット。 外部に対するセキュリティも非常に重要であり、今回は立地上3階までが人が寄りつけるスペースなので、1階2階3階の防護という考え方が警察庁舎として必要だと考える。
杉委員2	ボランティアのスペースとは何か。防災ボランティアとはどういうイメージなのか。	防犯ボランティア活動の拠点にしてはどうかという1つのアイデア。 県民が庁舎を身近に感じていただくということが重要なので、スペースをとるのは行政の1つの役割であると考えます。
杉委員3	受付のセキュリティラインをどう考えているか。	入館者をチェックする。受付を済ませた後に中に入っていくということ。使い勝手はこれからだが、セキュリティラインだけはしっかりする。
池松委員	庁舎の完成よりもデッキの接続が数年遅れた場合、3階のアプローチの仕方が変わる。タイムラグが生じる場合の対応策として、階を入れ替えるのかどうするのか。	デッキが出来ていないという想定の場合は、階を入れ替えるということも当然ある。 ただ、庁舎間の連携も重要なので、行政棟と警察棟とが一体として調整していくことが重要であるので1階になるということもあり得る。

江頭委員	<p>防災・治安の拠点として機能維持については、通信指令、管制センター、通信機械室を上階に置くことで、各執務室等にLANケーブル、通信ケーブル、電源線を多数配線することになるが、平面図にEPS等の記載が無く、マルチボイドだけを使って配線ルートを考えているのか。</p>	<p>フロアの真ん中の部分をコアとして、設備系の配管配線等を入れる。実際にLANとか電源ケーブルは、コアを中心として設置していく。</p> <p>マルチボイドは、必要な場合は設備系統も通せる。また、指令センター、交通管制センター等の大きな機器をマルチボイドから引き上げていく搬入ルートとしても考える。</p>
小松委員1	<p>通信指令室を大会議室に持ってくる機能変更のアイデアがあるが、通常のオフィスだとどういうことが起きるか予測ができるが、警察は特殊な業務であることから、その中でどういう変化を想定してどうするのか。</p>	<p>警察庁舎の執務空間は、大きな機構変更がない限り変わることはない。</p> <p>ただ、通信関係というのは非常に大きな部分を占めており、必ず将来にわたって変更しなければならない。その変更時に施設を止めず、業務を止めず移していくということがポイント。</p>
小松委員2	<p>指令室を移すというのは聞いたことがないが、どこかで事例をやられた経験があるのか。</p>	<p>通信関係は、昔はあまり変えることがなかったが、最近では10年先、15年先にシステム自体が変わる可能性があり、ハードが変わらずともソフトが変わる可能性がある。</p> <p>デジタル化されてきているのでその辺も変わる可能性があり、どう対応していくかがポイント。</p>
篠原委員	<p>全体の平面の形を不規則な形にした必然性がわからない。</p> <p>警察は、災害時に迅速に動かなくては行けないが、これだと方向感覚がずれるのではないか。</p>	<p>敷地に対して景観を作っていく。まちに対して景観をつくることが求められていることから、敷地全体を考えてこういう形とした。</p>
赤司委員1	<p>CO2排出を大きく削減するという提案は、警察という機能性を考えた時に設備の多重化等が必要になり、それも色々提案してあるが、それと省エネとは両立しにくいことから、これだけのCO2排出を削減する具体的な省エネのポイントは何か。</p>	<p>ライフサイクルCO2に関しては、実際に算出したものであり、水蓄熱を採用したことが低減の要素になっている。</p>
赤司委員2	<p>水蓄熱だけで低減することは難しいのでは。</p>	<p>水蓄熱だけでなく、提案したリストに沿って削減する。</p>
小松委員3	<p>無線塔を屋上に設置すると思われるが、その場合、その下に鉄骨の大きな梁を入れても大丈夫なのか。</p>	<p>鉄塔の下にトラス状の架構を組んで柱に重量を伝達をさせる工夫はいくらでもできる。</p>
林委員長3	<p>鉄塔についてはスパイラルの構造の提案があるが、建物全体について何か独自のデザインとかの提案はあるか。</p>	<p>建物をあまり主張させないような形にしていくことが大事であることから、シンプルにつくるという考え方を持っている。</p> <p>ただし鉄塔は、少し進歩性のある提案とする。</p>

## 第3回委員会 技術提案に対する各委員の意見（意見交換）

技術提案者	内 容	委員
A者	◇視点1に関する意見:特定テーマ①	
	県産材を積極的に使用するなど、より具体的で積極的な提案が見られた。	林
	1、2階をマウンドで囲むことの効果については疑問がある。	池松、杉
	◇視点1に関する意見:担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額に関する意見	
	大差なしと判断する。	林、小松、池松、杉
	◇視点2に関する意見:特定テーマ②、③	
	通信指令室や交通管制センターの配置等の機能計画については、今後、警察本部との協議を進める中で、検討を行う必要がある。	林、江頭、杉
	設備計画(多重化など)は十分に配慮されている。	赤司、小松
	EPSを専用化する考え方はセキュリティー面でよい。	江頭
	◇視点3に関する意見:特定テーマ④、⑤	
	平面計画は明快な提案である。	林、赤司、小松、篠原、池松
	低炭素は提案どおり実現できるか疑問である。	赤司
	開かれた警察と相談に行きやすい警察とが相反する提案である。	江頭
	◇視点4に関する意見:特定テーマ⑥	
	先行する行政棟、議会棟等の基本設計方針との景観的調和については、十分に配慮された提案であった。	林、安達、赤司、池松、杉
	アンテナ塔のデザインは工夫が必要である。	林

技術 提案者	内 容	委員
<b>B者</b>	<b>◇視点1に関する意見:特定テーマ①</b>	
	積極的、具体的提案に乏しい。	林
	一般的な内容にとどまる部分が多く、警察業務の特殊性への配慮がやや足りない。	小松
	<b>◇視点1に関する意見:担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額に関する意見</b>	
	大差なしと判断する。	林、小松、池松、杉
	<b>◇視点2に関する意見:特定テーマ②、③</b>	
	構造計画は検討が足りないと思われる。	林、安達、小松
	設備計画(多重化など)は十分に配慮されている。	赤司
	情報通信、指令室関係は相互メンテナンス等に配慮されている。	江頭
	治安拠点としての提案は評価できる。	杉
	<b>◇視点3に関する意見:特定テーマ④、⑤</b>	
	平面計画は検討が足りないと思われる。	林、赤司、小松、篠原
	通信機能のリプレイス方法はやや非現実的である。	林、赤司、小松、池松、江頭、杉
	6階に指令室を設けるなど、機能性を第一に考えている。	赤司、江頭
	低炭素は提案どおり実現できるか疑問である。	赤司
	相談ブースの提案等、県民に開かれた警察本部庁舎としての提案は評価できる。	杉
	<b>◇視点4に関する意見:特定テーマ⑥</b>	
	先行する行政棟、議会棟等の基本設計方針との景観的調和については、十分に配慮された提案であった。	林、安達、赤司、池松、杉
	アンテナ塔のデザインは評価できる。	林